

5-アミノサリチル酸製剤による大腸憩室炎の再発予防効果の検証 ～地域医療からの研究～

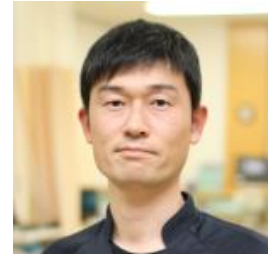
☆推薦文☆

漆谷先生は倉敷中央病院救急科と神石高原町立病院に勤務しながら今回の学位論文をまとめられました。地道な努力の賜でありとても立派だと思います。また、栗山明先生との出会いが漆谷先生を研究の道に導きました。人との出会い、そのチャンスを活かすこと、日々少しずつでも調べて書き続けること、そしてそのようなことを可能にする準備段階にあることが大切なのだと思います。地域医療学センター総合診療部門 松村正巳

倉敷中央病院 救急科 漆谷成悟（広島県 29 期卒業）

はじめまして。29 期卒業生の漆谷成悟と申します。

この度自治医科大学地域医療学センター総合診療部門教授の松村正巳先生にご指導いただき、学位（論文博士）を取得させていただきました。研究嫌だった私がここまで至った経緯をお伝えすることで微力ながら卒業生の皆様のお力になればと思います。



私は卒業後、広島県の中山間地域での医療に従事いたしました。特に卒後 5 年目から勤務した神石高原町立病院では、小児から高齢者まで、内因性、外因性問わず診療させていただく機会を得ました。その中で「困っている患者を一番初めに診ることができる医師になりたい」と考えるようになりました。

多くの卒業生が悩んでおられるであろう「臨床研究」や「論文執筆」ということに関して、私も同様にコンプレックスを感じていました。しかし、「目の前の患者を診察できて助けられたらいい」と自分に言い聞かせ、研究や論文からは目を反らしていたように思います。そして「困っている人を一番初めに診る」能力を磨くために、現在の勤務先である倉敷中央病院救急科で研修をさせていただくことになりました。

そんなある日、倉敷中央病院の同僚であり、現在も実地でご指導いただいている栗山明先生から、あるメタ分析の論文を読む課題を頂きました。それまでは真剣に英語論文を読んだことはなかったのですが、チャンスととらえて読み学ばせていただきました (1)。それがきっかけとなり自分が携わった患者様のケースレポートを執筆する機会もいただきました (2, 3, 4)。徐々に研究・論文執筆へのアレルギー症状も薄れてきて、いよ

いよ何か研究をしてみたいと思っていたときに、今回のテーマ「大腸憩室炎の予防」に至りました。

実は、大腸憩室炎を繰り返す患者には以前にも出会っていました。中年の男性で、毎回右下腹部痛で来院されては虫垂炎との鑑別に難渋するという方でした。その当時は「この方は毎回大変で苦労されているなあ」と思っただけでした。あれから数年がたち、研究テーマを探していた私は大腸憩室炎で入院を繰り返す中年女性を診察させていただきました。そして「何かいい予防方法はないのだろうか」と疑問を持って PubMed を調べました。すると、5-アミノサリチル酸製剤（5-ASA 製剤）に大腸憩室炎の予防効果があるかもしれないこと、いくつかの RCT があるが、研究によって結果が異なることがわかりました。そこで、「5-ASA 製剤による大腸憩室炎の再発予防効果」についてシステマティックレビューとメタ分析を行おうと考えました。研究と同時に学位を取得すべく、自治医科大学の松村先生に相談させていただき、ご指導をいただきながら研究を行いました。この研究方法の大変なところは、たくさんの論文の Abstract を読み、取捨選択し、論文を集め、また読み込むことです。主要な論文の著者への問い合わせもしなければなりません。中学時代から英語の成績が悪かった自分には大変な作業でしたが、いいこともありました。それは、インターネットさえあれば地域に居ながらにして研究を進めることができるということです。この頃の私は毎週木曜日と金曜日は当直付きで神石高原町立病院に勤務していましたので、当直の空いた時間を利用して研究を進めました。いよいよ原稿が完成し、投稿に際しては初めて Corresponding author を務めさせていただきました。本命の Journal へ投稿し、昼寝をして目覚めたら Reject のメールが来ていたということもありました。無事に Journal of Gastroenterology and Hepatology にアクセプトされた時には、嬉しさと同時にこの研究を指導してくださった先生方、この分野の先行研究者、今回の研究を行うきっかけとなった患者様、この先この論文を読んでくださる方々への責任や感謝、敬意とともに、ホッとしたのを思い出します (5)。

以前は「とにかく目の前の患者を診察して救えたらいい」と思っていました。しかし研究・論文執筆によって、自分と患者様の経験が世界のどこかの地域医療の現場で誰かの役に立つ可能性があることに気づかされました。地域に居ながら研究・論文執筆するというのは大変ですが決して不可能ではありません。卒業生で私のように迷っている先生がいらっしゃいましたら、ぜひ CRST に相談されてみてはいかがでしょうか。

学位取得の相談に親身になって応えて下さり、貴重なお時間を割いて研究・論文執筆のご指導をしてくださいました松村正巳先生に心より感謝申し上げます。そして、英語・研究・論文嫌いだった私をここまで励まし導いてくださった親友であり師である栗山明先生にもこの場を借りてあらためて感謝申し上げます。

1. Kuriyama A, Urushidani S, Sato M. Melatonin and postoperative pain: Can the heterogeneous be pooled? *Anaesthesia*. 2015;70:113-4
2. Urushidani S, Kuriyama A. Green urine. *QJM*. 2015;108:675
3. Urushidani S, Kuriyama A. *J Emerg Med*. An unexpected mimicker of appendicitis. 2016;50:670-1
4. Urushidani S, Kuriyama A. Trismus in sphenoid sinusitis. *Am J Med*. 2016;129:e23-4
5. Urushidani S, Kuriyama A, Matsumura M. 5-aminosalicylic acid agents for prevention of recurrent diverticulitis: A systematic review and meta-analysis. *J Gastroenterol Hepatol*. 2018;33:12-19

Dear Dr Urushidani,

Ms: JGH-00681-2017.R1

Title: 5-aminosalicylic acid agents for prevention of recurrent diverticulitis: a systematic review and meta-analysis.

I am pleased to inform you that your manuscript has been accepted for publication in the *Journal of Gastroenterology and Hepatology*.

Your article cannot be published until you have signed

[地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集](#)

地域医療オープン・ラボでは、[自治医大の教員や卒業生の研究活動](#)を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行]自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープンラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7477 / FAX 0285-44-3625 / e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<https://grad.jichi.ac.jp/>